VISION

— 視線の先に —Vol.27

飯南町長
塚原隆昭（つかはら たかあき）

「笑顔あふれるまち 飯南町」
―まちの新しい時代に向けて―

島根県中南部　広島県境に位置し
千メートル級の山々に囲まれた町
美しい自然と人々のぬくもりに包まれた町
〝小さな田舎（まち）からの「生命地域」宣言〟
その意味を肌で感じることができる町
そんな飯南町を訪ね
塚原町長の視線の先にある
「VISION」について伺いました

面　積：242.88㎢
人　口：　4,688人
国保被保険者数：981人
（令和3年5月末時点）

「笑顔あふれるまち 飯南町」の実現へ

国保連合会　竹中事務局長（以下、竹中）

塚原町長が就任されて4カ月が経ちました。町政への思いをお聞かせいただけますか。

塚原　隆昭　飯南町長（以下、塚原町長）

飯南町の誕生から16年、初めての町長交代となりました。住民の皆さまからの期待と責任の重さを強く感じております。

私は就任前、副町長でしたので、行政のことはよく分かっているつもりです。その点では、スムーズに引き継ぐことができたと思っております。今まで以上に、住民の皆さまとの対話も大事にしていきたいと思っておりますし、さまざまな分野、業種の方とお会いする機会が増え、見聞きする情報も多くなりました。

今後も、町内外問わず多くの方と意見交換し、人々の声を町政運営につなげ、将来に夢と希望がもてる「笑顔あふれるまち 飯南町」の実現に向けて取り組んでいきたいと思っております。

「住みたい田舎」全国1位

竹中　「生命地域」宣言など、これまでの基本理念を引き継ぎつつ、新たな取り組み、課題解決に向けてチャレンジされるとお伺いしました。

塚原町長　山碕前町長から託された町政のバトンには、これまでの政策にさらに磨きをかけてほしいとの思いも込められています。

私は、重点的に取り組む政策を5つ掲げました。公約の一番は、「子どもの声が聞こえるまちづくり」、少子化対策です。本町の出生数は、年間で25人前後。地域で子どもたちが行き交う姿、元気に遊び回る姿を見るため、少子化対策にはしっかりと取り組んでまいります。

飯南町の子どもたち―「とんばら探検隊（頓原公民館）」より―

本町は「住みたい田舎」ベストランキング※の町の部、全国の240町がエントリーした中で、総合1位を獲得しました。

「若者世代が住みたい田舎」「子育て世代が住みたい田舎」部門で1位、「シニア世代が住みたい田舎」部門では2位でした。これは、本町の子育て環境や教育の推進、各種助成制度等、それぞれの充実度が高く評価されたものだと思います。

しかし、まだまだ本町の暮らしやすさ、手厚い支援が十分に伝わっていないのが現状です。さらなるPRと踏み込んだ施策を進めていきたいと考えております。

「住みたい田舎」ベストランキング　町1位

医療提供体制の核となる飯南病院の存在

竹中　飯南町には町立飯南病院がありますが、地域医療の展開に関してはいかがでしょうか。

塚原町長　「安心・安全なまちづくり」を目指し、地域医療、福祉の充実、地域包括ケアの推進に取り組んでいます。

その中で核となるのが、飯南病院の存在です。以前は診療所化の話もありましたが、角田院長のリーダーシップの下、48床の病院として、本町

の医療、福祉を支える重要な役割を担っています。住民の皆さんの信頼も厚く、これからも大切にしていきたいと思います。

本町では、一昨年に民間医院が閉院となり、歯科を除くと、医療を提供できるのは、飯南病院と町立来島診療所、飯南病院の二つの出張所となりました。飯南病院は7人の常勤医師確保を目標としていますが、現在5人と専攻医1人です。医師確保に苦慮しながら、初期臨床研修の受け入れを積極的に行うなど、工夫しつつ医療を提供しています。看護師や臨床検査技師、薬剤師も不足しています。奨学金制度も設けていますが、人材不足は否めません。

しかし、角田院長はじめ若い医師が中心となって、住民の皆さんのため、懸命に地域医療に取り組んでくださっています。人材確保は一足飛びにはいきませんが、町の医療提供体制を維持するため、関係機関の協力を仰ぎながら、策を講じていきたいと思います。

森林セラピー基地が西日本初の「二つ星」飯南米のブランド化推進

竹中　観光、農林業、商工業等、産業振興についてはいかがですか。

塚原町長　観光は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各種イベントの中止が相次ぐなど、厳しい状況が続いています。

その中で、森林セラピー基地が「特におすすめ」として「二つ星」に昇格認定されました。全国で二つ星認定は2カ所のみ、西日本では初となります。

この春にも、ウッドチップを敷き直したところですが、施設管理が行き届いており、セラピープログラムも充実しています。観光目的の利用だけではなく、「町民の健康づくり」という視点でも大切な施設です。自治会、サークル単位でも積極的に利用していただき、森を通じた「心と体の健康維持・増進」につなげていければと思います。

「飯南米」は、農業振興の一つとして、ブランド化を推進しています。専門家からは、品質、食味とも高評価で、東京都の老舗スーパーでも取り扱っていただいています。リピーターも増え、取引相手も広がりました。実のところ、現在は販路がほぼ決まっていて、作付けを増やすことが課題です。知名度アップと情報発信も含め、戦略を立てたいと思います。

竹中　豊かな自然環境を産業振興に生かしていらっしゃいますね。

枝葉の間から差し込む癒やしの光
―飯南町森林セラピー基地にて―

飯南町で作った出雲大社の大しめ縄

飯南町は、他にも特長のあるものづくりを展開されています。「大しめ縄」が有名ですし、良質の日本酒もありますね。

塚原町長　しめ縄制作は、本町が誇る伝統技術です。継承していかなければなりません。平成30年には、出雲大社の大しめ縄が掛け替えられましたが、これは本町で作ったものです。来年は、出雲大社の分院、茨城県の常陸国（ひたちのくに）出雲大社へ奉納を予定しています。出雲大社のサイズに近い大しめ縄を依頼されており、今年から田植えをして、藁を確保する準備を始めています。

米に関しては、食用やしめ縄の稲だけでなく、酒米づくりが盛んです。本町は標高が約450メートルありますので、比較的高地に適した品種「佐香錦（さかにしき）」を栽培しています。

3月には、町内の蔵元から、町内産の酒米を使用した純米酒「琴引山」が発売されました。蔵元では、売上の一部を琴引山の環境保全のために寄付される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が終息しない状況から、今年度はアルコール消毒液を町に寄贈いただきました。

実は、この酒のラベル文字、頼まれて私が書いたものです。習字は小学校でやったくらいですし、「よう書かん」と言ったのですが（笑）。

日本酒がお好きであれば、ぜひ試してみてください。

塚原町長揮毫（きごう）
「琴引山」

地域包括ケア推進局を中心とした連携

竹中　健康に暮らせるまちづくりのビジョン、体制等についてお聞かせください。

塚原町長　本町では、健康増進計画「健康ないなん21」を策定しています。

この計画は、飯南町総合振興計画の基本理念である〝小さな田舎からの「生命地域」宣言〟の実現をめざし、「地域の力ですべての町民の健康長寿をめざす」ことを方針とした行動計画です。

地域の特徴ある活動を生かしながら、健康に暮らせるまちづくりのために、行政と住民、関係機関がそれぞれの役割を明確にし、一体となって施策展開、地域包括ケアの推進に取り組んでいきます。

そのための体制整備として、飯南病院と保健福祉課、福祉事務所から構成される「飯南町地域包括ケア推進局」を設置し、本町の行政組織の中に位置付けています。

全体的な取り組みは推進局を中心に行い、専門的な分野に関しては、町内の事業所も所属する「医療部会」と「介護福祉部会」で、官民一体となった支援、取り組みを進めているところです。

また、保健福祉課と飯南病院との間では、保健師の人事異動を行っています。そうすることで、健診事業や生活習慣病予防事業等を、より一体的に、連携して実施できます。保健福祉課の小玉課長も、もともと飯南病院の看護師だったところ、今は、推進局の事務局長兼保健福祉課長として活躍してもらっています。双方の事情がよく分かることで、病院をはじめ、関係機関との連携も図りやすく、本当に力になってくれています。

「飯南町長生き体操」
—介護予防の視点を地域へ浸透させるために—

竹中　力を入れている取り組み、特色ある取り組み等はございますか。

塚原町長　住み慣れた地域で過ごすためには、高齢になっても「自分らしく」生活ができるよう、日ごろから介護予防に取り組むことが重要です。

本町では、効果的な介護予防の推進を目的として、地域包括支援センターに理学療法士を配置し、地域性を生かした取り組みを進めてきました。

その一つに、住民主体の「通いの場」づくりに向け考案した「飯南町長生き体操」があります。

長生き体操の様子

長生き体操に取り組む飯南町野萱地区の皆さん

この長生き体操は、本町の理学療法士が、体操ツールを使った介護予防を実践している岡山県津山市の仕組みを参考にして作った独自の体操です。この理学療法士の祖母が百歳を超えるご長寿で、長生き体操には、その方が行っていた体操の要素も入っています。

長生き体操の普及啓発に取り組んだ結果、今では多くの地域やサロン活動で実践されており、この4月時点で51カ所、本町の高齢者の28％の方が、週1回、自主的に取り組む体操にまで広がりました。

住民の皆さんが楽しんで取り組まれており、介護予防への意識も高まっています。継続が大事ですので、引き続き普及啓発を行い、地域全体に広げていきたいと思います。

健康管理システム導入で生涯にわたる健康づくりをサポート

竹中　健康なまちづくりに向けた課題等についてはいかがですか。

小玉　千恵　保健福祉課長（以下、小玉課長）

本町の健康課題として、男性のがん死亡率の高さと、1人当たり入院費の高止まりが目立ちます。国保被保険者の6割は高齢者であり、定年退職等で社保から国保へ加入される方の健康状態は無視することができません。国保加入前、職域での

小玉課長

健康づくりを併せて行っていく必要があります。

本町では昨年度、全町民の健康情報を台帳化する健康管理システムを導入しました。今後、PHR（パーソナル・ヘルス・レコード）に、自治体と保険者間で健診情報等を共有する仕組みが構築されることを見越し、職域も含めた健康づくりを模索するとともに、町民一人一人の生涯を通じた健康づくりのサポートにつなげていきたいと考えております。

また、生活習慣病に起因した医療費も高い傾向にあり、以前から健診（検診）事業によるアプローチに取り組んできました。その結果、特定健診・がん検診等の受診率は少しずつ上がってきていますが、健診後のフォローに、まだまだ課題があると感じています。

竹中　今後、国保連合会に望むことがございましたらお聞かせください。

塚原町長　各保険者の状況を踏まえた医療・介護データの分析や、健康増進事業等にも活用できるような、医療情報等の提供に期待しています。小さな自治体では手が回らない部分もありますので、引き続き支援をお願いします。

和気あいあいとした雰囲気
（左から塚原町長、保健福祉課 小玉課長、森山主幹）

楽しみは磯釣りと野菜づくり

竹中　終わりに、塚原町長ご自身の健康法や趣味についてお聞かせください。

塚原町長　健康法といったものは特にありませんが、私は小さい頃から甘いものが好きで、清涼飲料水などもついつい飲んでしまいます。そのため、意識して、なるべく控えるようにしています。

趣味は、磯釣りと野菜づくりですかね。磯釣りは、九州や四国まで行くこともあります。最後に行ったのは昨年の10月頃だったと思いますが、今はなかなか遠くへ出かけて楽しむことができず、とても残念です。

野菜は、家の畑で作っています。朝5時半くらいに起きて畑に行き、ウグイスの鳴き声を聞きながら涼しいうちに作業をして、その後仕事に行くという日もあります。

—美しい自然と
人々のぬくもりに包まれた飯南町—

満点の星空

飯南町ふるさとの森キャンプ場

小玉課長　草刈りをする時は、隣に遠慮して（笑）。

塚原町長　そうそう（笑）。

小玉課長と私は家が隣なんですよ。なので、草刈りは、6時にならないとしないことにしています。ブンブン音がしますからね。朝6時のチャイムが鳴ったら、草刈機のエンジンをかけています。

小玉課長　お気遣いいただいて、ありがとうございます（笑）。

竹中　趣味が、良い気分転換になっていらっしゃるようですね。

今度、よろしければ磯釣りの写真など拝見できればと思います。

本日はどうもありがとうございました。

釣り上げたヒラマサを手にする
塚原町長

※「住みたい田舎」ベストランキング
㈱宝島社が発行する月刊誌『田舎暮らしの本』が毎年実施しているランキング。移住支援の充実度、自然環境、医療、子育て、就業など272項目のアンケートに自治体が回答。田舎暮らしの魅力を数値化し、ランキング形式で紹介している。
飯南町は、2021年版（第9回）の町の部で総合1位に選ばれた。